

765 ライブシアター 公演記録
(WEB 版)

佐倉羽織



アイドルマスター ミリオンライブ シアターデイズ fan book



765ライブシアター 公演記録(WEB版)

2018年7月25日 18時公演

チームP 1st 「Princess Be Ambitious」公演」

本日のトピック

- 松田が定期公演出演100回を達成。Pでは九人目。
- 田中が体調不良のため急遽休演。チームF周防が初アンダー。
- キャン待ち当選 対内4人、対外2人

アンダー情報(初日基準)

全体曲

田中↑高坂↑周防(チームF)

ユニット曲

田中↑周防(チームF)

影アナ

福田「本日は765プロライブシアターにご来場いただきまして誠にありがとうございます。開演に先立ち、お客様にいくつかのお願いを申し上げます。開演中椅子の上に立ったり、ご自分の席を離れて前に駆け出したりしますと大変危険です。

また、やむを得ない場合を除き、公演中に席を立て移動する行為は他のお客様のご迷惑になりますのでおやめください。本公演の動画、静止画での撮影、及び録音等の行為は禁止させていただきます。ただいております。

携帯電話のご使用は進行の妨げになる場合がございますので、必ず電源をお切りください。

館内での飲食は禁止です。本公演は休憩時間がございますので公演中の喫煙所の使用もお断りさせていただきます。あらかじめご了承ください。

ペンライト、うちわ、メッセージボード等のご使用は両隣、それから後ろの席の方のご迷惑にならない範囲でお願いします」

福田「(一呼吸)みなさん、準備は出来てますか？」

(客席反応)

福田「今日は琴葉がお休みで、ちょっと心配なんですけれど、桃子の力も借りて楽しい公演にして行きたいと思います」

(客席反応)

福田「以上、チーム Princess 福田のり子でした。もう少しだけ待っていてね」

※定刻通り18:00開演

※ M01 MUSICI (全チーム共通) M02 Birth of Color M03 HOME, SWEET FRIENDSHIP

MC01

福田「みなさんこんばんは」

一同「ミリオンシアター、チーム Princess です(客席に礼)」

福田「ミリオンシアター、チーム Princess『Princess Be Ambitious』公演』が始まりました。まず最初に、MUSICI' Birth of Color その HOME, SWEET FRIENDSHIP の三曲を聴いていただきます。もりあがってますかッ(右腕をつきあげる)」

(メンバー、客席歓声)

福田「ありがとうございます。それではお題に沿って一人ずつ自己紹介をさせてください。今日のお題は最近うれしかったこと。奈緒から」

横山「まいど、横山奈緒です。いえーい。みんな元気でいいですね。私はね、この間テレビのバラエティー番組に出させていだいたときのことなんですけど、こっちでいうと富士山テレビの、ホッケ師匠のやつ。見てくれた人います？ ぎょうさんおね。ありがとう」

横山「もう放送終わったんで、自由に話すんですけど。私、二回目やったんですよ、一回目は半年前なんでホッケ師匠覚えてへんやろなって、私のこと。収録大阪やってんで、私お土産もってったんですよ、東京駅で大阪のお土産って書いてるのをね。大阪では売ってへん奴。楽屋挨拶に行ったら、師匠わろうてくださって、『よりによってこれか、あかん東京の空気に染まってしまったか君は』って。本番で「横山。すっかり東京に染まってる横山」って振ってくださいって、『そんなことないですね』って東京のアクセントで言ったのが。あれ、今のあってる？ もうわからなくなっちゃったわ。とにかくそれがうれしかったです。そんなかんじで。今日も大阪魂を忘れずに通天閣のように突き抜けます。おおきに」

高山「高山紗代子、17歳です。よろしくお願います。私もTVの話なんですけど。私は見るの方の話です。この間レッススが早く終わって、いつもより早く家について、普段見ない夕方のニュースを

見たら、部活頑張ってる子の話をしている。こうやって紹介してもらえるのは励みになるし、いいことだなおもいました。わたしも負けられないように頑張ります。よろしくお願いします」

福田「はい、福田のり子です。このお題を聞いたときに、これしかないじゃんと思って。こないだのタイトルマッチ見た人います？ えーみんな見ようよプロレス。もうね、オカモト・カズヒコ選手のね。あー、えー。私の語彙力じゃうまく伝えられない。月額1,000円でネットで見られますので、みんなプロレスチャンネル契約して、是非自分の目で見たください。あれ？ 宣伝になっちゃった。自分でてるわけじゃないのに。まあいつか。そんな感じで」

佐竹「福田を見て」え、もういいの？（福田、どうぞのジェスチャー）では。佐竹美奈子、18歳です。私はうちのお店での話なんですけど」

福田「実家の中華料理店のね」

佐竹「そう。佐竹飯店。アイドルになってからはあんまりお店に立つ時間がなくてさみしいんですけど、なかなか立てないので新メニューだけでもって思っているいろいろ考えて。で、常連さんの反応を後で聞くんですけど、大好評だったときはうれしくなります。はい、今日もわっほーい！ と盛り上がりましょう。よろしくお願いします。次は、百合子ちゃんです」

（一列目、下手ハケ。二列目前に進む）

七尾「七尾百合子です。私は本屋さんなんですけど、最近お仕事で行った先とかで初めて行く本屋さんを楽しみで。小さな本屋さんでも本の並べた方とか結構違うじゃないですか。なんで今までこの本見つけられなかったのかなっていう小説に結構出会えるじゃないですか。わかります？わかりますよね。店頭で平らにおいてあるのも手書きの説明とか楽しいんですけど、奥の本棚に意味ありそうに並んでる中から探して、読んでみて、これいいなっていうのを探すが、宝探しっぽくて嬉しいです」

松田「ありさはアイドルちゃんなんですけど。なんで笑うんですか？ あ！ ありさがアイドルってことじゃなくてですね(客席から、そんなことないよーの声)えええ？ これはどうしたら……」

中谷「アイドルな亜利沙さんが、他のアイドルさんを見て嬉しくなったりして事？」

松田「ああつ、そうですそうです。育ちゃん女神様です。ありさ一生着いていきます。はっ！ そうでした。もどります」

松田「ありさはアイドルちゃんなんですけど……ひょえーループしてる。えーと。自分の好きなアイドルちゃんの存在が嬉しいんです。よし。わかりますよね？ よかった。皆さんもだと思っただけ、ありさ、こうしてアイドルちゃんやってるのも色々なアイドルちゃんが目の前に現れてくれたからで、ありさ、基本DDなんですけど、その中でも一推しってありますよね？(亜利

沙が一推しだよの声)、ひゃっつ口コちゃん推しの方気を遣っていたいてありがたいがとうござい
ます、今日はPrincess公演ですけど大丈夫ですか？(客席笑い)あー。えーと。ちよっと落ち込
んだときは一推しのアイドルちゃんの映像を見ながら元気を貰ったりしてます。今日もよろし
く——(オフマイクで呼ばれたのか後ろを振り向く)」

周防「(マイクをあげて) 亜利沙さん名前言い忘れてるよ」

松田「(客席に向き直って) 松田亜利沙です、でした。よろしくお願ひしました(頭を下げる)」

(中谷、笑ってしまつて話せない)

高坂「育りん大丈夫？ 私先にやろうか？」

(中谷、手のひらを左右に振つて、高坂を止め、深呼吸する)

中谷「すみません。中谷育です。よろしくお願ひします。わたしは、この間桃子ちゃんと原宿に行つた
話なんですけど」

(中谷、周防を見る)

周防「オフの日にね」

中谷「そう。桃子ちゃんとチーム違うから、あんまりスケジュール一緒にならないんだけど、その週は
レッスンとお休みが被つて、ずっと食べたかった焼きたてメロンパンアイスを食べに行つて。

二人だけで。そうしたら、味がちょうど二種類で、二人で半分ずつ食べて。美味しいし楽しいで幸せになりました。(振り返り周防を見る) また行きたいね」

周防「スケジュールが合えばね」

中谷「(客席に視線を戻して) 桃子ちゃんの許可が出たので、今が一番幸せです。今日も元気に飛び跳ねます。よろしくお願いします」

高坂「高坂海美ですっ。私はね、マリンスポーツ全般好きなの？ 意外？ そうでもない？ この間急に思いついてもう我慢できなくて、ウェイクボードしに行ってきたんですよ。それが楽しかった話と思うでしょ？ 違うの聞いて！ オーディションの前日だったの、それで、見事に日焼けしちゃって。文学少女の役だったから、プロデューサーに叱られてへこんでたの。落ちちゃったし。でもでも、監督から別の役の打診がね来たの、すごいでしょ？ これ言っているのかな？ 解禁前かな？ わかんないから、えっと、詳しくはWebで。くー、これ言ってみたかったんだあ。あー満足。幸せ。それじゃあ、今日も張り切っていきましょう！」

徳川「はいほー。徳川まつりでなのです。姫は幸せでない瞬間はないのです。なのでこの質問は難しいですよ。でも、ちゃんと答えるですよ。皆さんに生誕祭の時にいただいたお花を、妖精さんにお願ひして綺麗なままにしてお城に飾ってるのです。目を覚ますとすぐに見えるのです。ま

つりの幸せは毎日そこから始まるのですよ。ほ？ ドライフラワーって言うのは何なのですか？ よくわからないのです。きょうもわんだほーな公演にしてみました。次は周防の桃子ちゃんなのです、どうぞ！」

(二列目、下手ハケ。三列目前に進む)

周防「もう、やりにくいなあ。Fairy から来ました、周防桃子です。ほんのちよつとだけ緊張しています。ちよつとだけね。桃子はずっと他のチームの公演に出たいって言っていて、こうやって頼られて、他のチームの公演にでて、いつもと違う表情とかそう言うのを見てもらって、ファンになってもええたら幸せだと思おうので。まずは今日、しっかりと記憶に残る「演技」をできたらなっと思っていきます。よろしくお願いします」

エミリー「ごヒイキ様方、こんばんは。エミリー・スチュアートと申します。よろしくお願ひいたします。(深く礼)さて、私が幸せになったことですが、こうして大和撫子としてごヒイキ様方の前で舞い踊ることは当然幸せな事なのですが、もう少し個人的な事で申しますと、先日妖精組の紬さんにお誘ひいただいて、金魚展覧会付き喫茶店に行つてまいりました。猫放牧喫茶店と違つて、自由に金魚に触れることはできないのですが、紬さんは予約をしてくださつて、紬さんの推し金魚の水槽の近くの席でゆっくりとお時間を過ごしながら、抹茶渦巻き生乳冷やし菓子

をいただきました。普段見せないような紬さんの表情に大変心が温かくなりました。ごヒイキの皆様方の心にも今日の特別な体験が残りますよう、他の者と一緒に精進してまいりますので、ご声援のほどよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございますございました(深く礼)」

春日「はい、春日未来ですうーう、いえい。ありがとうございます。今日もよく見る人がたくさん嬉しいな。あ、嬉しかったことですよね。なんだろうな。あ、そう、こないだ小テストでなんか100点取りました！ え、薄いですか？ 薄いかな？」

周防「薄い、とおもうよ」

春日「私的には大事件なんだけど。んーんーんー考えても学食のメニューとかの話になっちゃうので、やめておきます。みなさん、今日は明るく楽しく、声を出していきましょー！」

矢吹「はいっ。やっぶぎかなー♪今日も歌うよやっぶぎかなー♪今日も元気だ矢吹可奈あーあー♪。一緒に歌っていただいてありがとうございますっ矢吹可奈ですっ。可奈は本当に本当に小さな幸せなんですけど、今日楽屋でジュース飲みたいなって思って、自動販売機の所に行ったら、お財布忘れてたことに気がついて、がっくりしてたら莉緒さんが当たり出したら分けてくれるって言って、何本か買ったんですけど当たらず。でも頑張ってくれたから私もなんか気分が明るくなって、二人で『すぐに当たったら苦勞しないよね』『楽屋戻ったら払いますね』って話を

してたら、通りがかりのジュリアさんが無言でコイン入れて、タイミングを見てボタンを押して。そしたら一発であたって！『可奈、好きなの飲みな』って言ってくれて。もうなんかうれしくて。お礼に気持ちを歌って返そうと思ったら『おっと、そいつはもっと大事なときにとつきな』って言って去って行っただけですよ。かっこいいですよ。なんか漫画の主人公になったみたいでうれしかったです。はい。今日も♪私らしく元気に頑張ります♪」

矢吹「はい。本日の公演は以上13人でお送りします。みなさん、盛り上がる準備はできてますか？」

(3人、客席にマイクを向ける、客席から歓声)

エミリー「おや？ 今日のごヒイキ様方、そんな感じですか？」

(客席大きな歓声)

周防「まだまだいけるよ！」

(さらに大きな歓声)

矢吹「ありがとうございます。その調子で声出していきましょう。次は様々なユニットのコーナーです。どうぞ！」

(3人、足早に上手にハケる。暗転)

※ M05 ビッグバンズバリボー Ⅲ

横山、高山、福田、佐竹

※ M06 透明なプロローグ

七尾 BD 松田、中谷、高坂、徳川

※ M07 Episode: Tiara

春日、矢吹、田中

※ M08 だってあなたはプリンセス

徳川、エミリー

※ M09 アニマルステイション

中谷（ペンギン）、松田（ライオン）、高坂（ゾウ）

BD 福田（イヌ）、横山（ネコ）

MC02

横山「ビッグバンズバリボー Ⅲ、透明なプロローグ、Episode: Tiara、だってあなたはプリンセス、そ

してアニマルステイション。五曲続けてきていただきました。アニマル組再結成ですけれども」

中谷「なつかしい」

横山「まあ、私はね、歌割なくなっただけですけども」

福田「んなこといったら、アタシは上下入れ替わっただけだよ」

中谷「ねえ、みて！（と言ってペンギンワンピースの裾を指さす）こんなに丈が短くなってるの」

高坂「育りん成長してんだね。前をよく憶えてないけど」

横山「せやるか？ そんなあんまり変わってるようにみえへんけど」

松田「いやいやいやいや、か、ん、ぜ、ん、に違ってますよ。ありさが言うのだからまちがいはないで

すよ」

中谷「だよね」

高坂「ねえねえ、『再結成』って言ってたけど、ユニットチェンジ後は名前変わったの？」

横山「話飛ぶな、んー」

福田「横山の顔を見て）アニマルステーションユニットメンバー」

横山「だって、まつりと美奈子やん、全員大人よ？」

高坂「まつりんそういうノリ好きそうじゃん、じゃんじゃん」

福田「いやいや、まつり、ああ見えて——何？^{なん}」

（横山と福田が上手袖を見る）

横山「こっちのぞいてんやんか、圧力？」

（徳川、袖から顔だけ出して客席に視線を送ったあと、オフマイクで手を左右にひらひらさせて引っ込む）

福田「圧力じゃないってさ」

中谷「わたしはまつりさんのペンペン好きだなあ」

横山「美奈子もほめたって。あれで本人気にいってん」

中谷「ガオーは、美奈子さんも亜利沙さんも同じぐらい好き」

松田「銃で撃たれたようなりアクションで胸を押さえて膝をつきながら）ぐはあ、育ちゃん女神様ありがとうございます」

横山「（自分を指さしながら）パオーンは？」

中谷「海美さん」

高坂「いえーい！」

横山「ほんま賢い子やでランプついてんもんな。というわけで『Princess Be Ambitious!!公演』まだまだ続きます。次はこの曲です」

（M09 メンバー手を振りながら足早に上手にハケ、暗転）

※ M10 PRETTY DREAMER' M11 Starry Melody' M12 Princess Be Ambitious!!

MC03-A 横山、佐竹、春日、徳川、高坂、エミリー

(徳川、佐竹、高坂、エミリー、横山を残して全員はハケる。高坂と佐竹、人数を確認しつつ、自分の立ち位置のまま両側の舞台袖を首を伸ばして確認している)

徳川「なんなのですか？ 姫が司会だと何か不満があるのです？」

高坂「え？ 何でもないよ、いこう」

徳川「PRETTY DREAMER、Starry Melody、そしてPrincess Be Ambitious!をきいていたいたのです。

さて、前半組は『メンバーの直して欲しいところ』について、話していきましょう。んーと、姫の司会に不満のある海美ちゃん」

高坂「ええ？ 不満ないよ、ないない。えーと私は——」

横山「あるやん、しっかり」

高坂「え？ まつりんの司会には不満ないよ？」

横山「あ。そういうこと？」

高坂「？ 進めていい？ 私はのりさんの事なんですけど。(楽屋の)着替え場所が隣なの」

佐竹「ああ(心底残念そうに)」

徳川「メンバーにはそれだけで充分伝わるのです」

高坂「(客席の反応を見て)ピンときてない」

佐竹「着替えの話にピンときてたら危ないですけどね」

横山「エミリーもピンときてへんで」

エミリー「はい、衣装棚いつも綺麗になっていますし」

高坂「あのね、脱ぎ散らかしとかじゃないの。(エミリーを見て)ラックもきちんと使ってるの」

横山「せやな」

佐竹「当たるんだよね」

エミリー「当たる？」

横山「なんやろ、アクションがいちいち大きいんよ」

エミリー「ああ」

高坂「でも、ものすごく気を遣ってくれるから、こちらこそゴメンねってなって」

横山「まあ、本人もめっちゃ気をつけてるから許したって。それに本人いないとこで言ったら悪口よ」

徳川「散々みんなで言った後なので説得力は無いのです。次、エミリーちゃん」

エミリー「私は逆に、なおして欲しくないことなのですが」

高坂「斬新」

(エミリー、徳川を見る)

徳川「ひとまず聞いてみるのです」

エミリー「姫組は、とっても仲がよいですよね」

横山「FairyとAngelが仲が悪いつて言うことじゃなくて、特にPrincessが仲がいいつて事ね」

エミリー「はい。この間もお食事会にいきました」

高坂「スケジュール空いている子でね。幹事が琴葉で」

横山「『Princess会』で予約されてて店員さんに『皆様どういうプリンセスでいらつしやるのです

か?』つて聞かれたやつな」

高坂「久しぶりの、佐竹外、開催でね」

佐竹「とっても美味しかったですね。私としてはちょっとだけ悔しいですけど」

エミリー「お食事会以外も遊びに出かけたりと。なんだか、姉妹がいつぺんに増えたみたいで嬉しいので、ずっと続いていたら嬉しいです」

横山「判定は?(徳川を見る)」

徳川「ありなのですよ。では、美奈子ちゃん」

佐竹「私は、奈緒ちゃん」

横山「なんで？ ごはんめっちゃ美味しそうに食べるよ？」

佐竹「うん、そこは大好きですよ。でも何をのんでも『ふはあ、くうー』って言うじゃないですか、最近」

横山「言うね。ブーム」

佐竹「それはやめて欲しいんです」

横山「なんで？（客席に向かって）皆さんも言いますよね？ ほら」

高坂「コーラとか炭酸水とか言うかな。あと牛乳」

横山「牛乳はいわないとあかん」

佐竹「スパークドリンク飲むときに言うじゃないですか」

横山「あー、スパドリ。むしろ積極的に」

佐竹「派手に」

横山（飲むまね）ふはーっと」

佐竹「小さい子達がマネするんですよ。Angelの環ちゃんとか」

横山「環、スパドリ飲むん？」

佐竹「スパドリは飲みませんが、あの子、ウォーターサーバーから紙コップに水を入れて」

横山「ふはー、くうー」って?」

佐竹「それを一口ずつ、飲み終わるまで繰り返すんです」

横山「ええやん、かわいらしいやん」

佐竹「劇場の中だったら可愛いで済むんですけど」

高坂「あー、外かあ。だねー。それはちよつとよくないかも」

徳川「というわけで、前半組は奈緒ちゃんに表に出せる人かどうかについて話してきました」

横山「なんでそうなるん?」

徳川「次は後半組なのです、どうぞー」

(前半組下手にハケる)

MC03-B 福田、高山、七尾、矢吹、周防、中谷、松田、春日

(前半組と入れ替わりで上手から登場)

一同「いえーい」

福田「さて。(客席に視線を感じてそちらを見る)なに? 私なんかついてる? なんもないよね?」

福田「気を取り直して。後半組も『メンバーの直して欲しいところ』について話していききたいと思いま

す。何かある人」

(高山、周防、春日が控えめに、他のメンバーが大きく手を上げる)

福田「はい、じゃあ、紗代子」

高山「え？ 当てられないように小さくあげてたのに。矢吹可奈」

矢吹「ひえっ？(高山を見る)何？」

高山「(矢吹を見て)私はあなたに直して欲しいところがあります」

矢吹「えっ？ うるさくしてごめんなさい」

福田「先に謝っていくスタイル」

高山「それもない事はないけど。この間可奈ちゃんとお買い物に行ったんですけど」

矢吹「(驚き顔で)いったー！」

高山「(矢吹を指さしながら客席を見て)この人自分からファンの方のところに声かけにいくんですよ」

七尾「(高山を見て)ファンの方が来るんじゃないかって？」

高山「逆。可奈が駆け寄って行っちゃうんです」

矢吹「だってえー、いつも見る顔だと嬉しくなっちゃってえ」

福田「未来はどう思う？ 可奈の行動」

春日「ちよつとビックリしたような表情で福田を見て）何？ 聞いてなかった」

福田「もう、ちゃんと参加してね」

春日「笑顔で手を上げて）はい、えへへ」

福田「あとそこ（周防と中谷を指さして）いちゃいちゃしないの」

周防「ほら、怒られたじゃない！」

福田「育はなんかないの？」

中谷「あるよ。琴葉さんの事」

（客席ざわつく）

中谷「早く病気なおして一緒に公演に出て欲しい」

（客席から「おお」の声）

中谷「急に頭を撫でてきた松田の方を見て）？」

福田「育、よく言った。お姉さん感動しちゃった。今日は『メンバーの直して欲しいところ』について

話してきました」

七尾「次が最後の曲になります」

（客席から「えー」の声）

中谷「(手でバツテンを作って)だめー。もう終わり」

七尾「よく出来ました。最後の曲、聞いて下さい。合い言葉はスタートアップ」

※M13 合い言葉はスタートアップ／本篇終了

※アンコール。口上等はなし。コールも通常。

※ AC1 Growing Storm! AC2 Justice OR Voice

MCO4

福田「アンコールありがとうございます」

一同「ありがとうございます」

福田「Growing Storm! Justice OR Voice。二曲続けて聞いていただきました。ここでメンバーに今日の公演の感想を聞いてみたいと思います。んーと、今日急遽出演してくれた桃子」

周防「はい。桃子は去年一回 Princess 公演の振り入れには参加したんですけど、ずっとでるタイミン
グがなくて。昨日急にでるって決まっばたばた振りV見直したりしました。育に聞いたり」

(中谷ちよつと自慢げな笑顔でうなづく)

周防「でも急遽だったのでってあんまりいいたくないんだけど、色々納得いかなかったこともあるし、
琴葉さんには早く元気になって貰って、もう一度ちゃんとした形で出演出来たらなって思いま
す」

中谷「今度は一緒にユニットやりたいな」

周防「(少し考えて)『だってあなたはプリンセス』だったら」

福田「それじゃあ育も憶えないとね」

(中谷、オフマイクで手を上げて返事)

福田「では」

福田「次が本当に最後の曲になります」

(客席の「えー」の声に反応せず)

福田「アタシたちは6月に初めて舞台に立ち、12月にチームPrincessとして集まって、メンバーとファ
ンの皆さんと一緒に色々乗り越えてきました。いつでも私たちの原点であるこの劇場のことを
忘れないために、この曲を歌いたいと思います」

福田「ココロが帰る場所」

※AC3 ロロロが帰る場所

MC05

福田「本日はご来場いただきましてありがとうございます」

一同「ありがとうございました」

福田「このあとは感謝の気持ちを込めましてロビーにてお見送り会を行わせていただきます。参加ご希望の方は退出時にスタッフにお申し付けください。また、ロビーにてグッズを販売していますので、本日来場の記念に是非お立ち寄りください」

(客席、「はい」の合いの手)

福田「今、はいつていった人は必ず寄るように。お願いしますよ。さ、それでは最後の挨拶をみんなですましようー!」

メンバー、一列になり手をつないで一礼。

挨拶の最中に客席より「垂里砂ちゃん、(定期公演出演)100回目おめでとうの声」

一同「ありがとうございました」

舞台上でそれぞれファンに挨拶をしてハケる。(中谷、周防は年齢制限のため即時ハケ)

いったんはけた松田を誰かメンバーが舞台上に押し出す。

客席歓声。

松田「(上手立ち位置番号3番あたりで)あの、ありさずっと一生懸命で。100回っていうのはAngel

も含めてですか？　ですよね？　こんな、歌もダンスもうまくないありさはアイドルちゃんど

してはダメダメなのかも知れませんが(そんなことないよーのコールを受け泣き顔になるも、

もちなおして)まだまだ頑張りますんで、一緒に着いてきてくれると嬉しいです。今日は本当に

ありがとうございます」

松田笑顔で手を振りながら下手にハケて終演。(2005 / 上演時間2時間5分)

お見送り会

不参加…中谷、周防(13歳未満)及び春日(理由不明。仕事?)

ライブアーカイブ追加コメント

出演…福田、横山

二人「公演終わりましたー」

横山「どうでしたか今日の公演」

福田「琴葉ダウンからの、誰もアンダー経験者が空いてないという」

横山「琴葉のポジ結構いるんやけどな、ドラマやってたから」

福田「ねえ。これは12人公演やむなしからの」

二人「桃子」

福田「ほんと救世主」

横山「もともとは他のポジの予定だっけんけどな、急遽憶えてくれて」

福田「あとは。なんか前半MCでアタシがデイスられてたとか聞いたけど」

横山「そんなときの、ライブアーカイブ（確認）ですよ。まあこれ見ている皆さんはもう見終わった感じですけどね」

福田「じゃあ、私も帰ってから確認しまーす」

横山「そういうわけで、次回も」

二人「お楽しみにー。バイバーイ」

感想

初めて3巡で当選し、前方で見たい気持ちもあったのだが涙をのんで positioning へ。

周防が前半曲で普段の Fairy 公演ではみせないようなちよつと不安そうな表情を見せる瞬間があったのだが、若干周囲に助けられていたものの、安定のパフォーマンスをみせていた。

その周防とプライベートで仲がよい中谷が定期公演では初共演だからか、曲中を含め終始テンションが高かった。

スライドアンダーの高坂は細かい振りミスがみうけられた。気持ちに前に出すぎているのかもしれない。チームPは休演対応時でもスライドアンダーをおかさないことが多いので経験が不足しているのかも知れない。

松田はこの日で出演100回達成とのこと(生誕委しらべ)。現状アンダー出演している Princess メンバーの中で唯一 Fairy 公演にでられていないメンバーなので、達成は遅かった。歌割のないときにオマイクでコールを入れていて歌割に間に合わなかったりと若干集中力に欠けるところもあるが、熱意はシアターいちだと思うので、これからの成長が楽しみなメンバーの一人。

これはメンバーの話では無いが、P推しの皆さんの箱推し具合に感心している。そこそこ知名度のあ

る田中の急遽休演で、対外はともかく対内の繰り上がりがここまで少ないのは記憶にない。実際、繰り上がりを期待していつもよりキャン待ち行列に並ぶ人が多かったように思う。結果としてロビ鑑も多かったようで、退出後見た劇場ロビーはいつもより賑わっていた。

声援も、アンダーの周防を含めて非常に大きく、ファン側の「チームを育てよう」という気概のようなものを感じた。これが他のチーム推しにも伝わっていくことを願う。

WEB版あとがき

頒布版のエラツタを解消した速報版に続いて、MC3―A、Bと終演後を追記した、WEB版をお届けします。これでとりあえずの完結ですが、微妙にこの公演の舞台裏について「メイキング」をかけるぐらいには裏設定のネタがあるので、気が向いたら書くかもしれないですね。

佐倉、ずっとデレステというかデレアニの二次創作を書いていて、でもメインにプレイするのはミリシタというねじれもあり、とにかく智絵里ちゃん物語はしつかりと完結させつつ、ミリシタでは(架空)公演レポをマイペースに書いていこうかなと今は思っています。書いてて公演見た後みたいで楽しいですね。

佐倉、アニメレ、ミリシタのファンと同時に、実在するアイドルである、HKT48のファンでもありません。Documentary of theシリーズとか、CloverDaysとかは、そつちで入手した情報をフル導入して書いていたりするのですが、いつかミリシタを書くときは劇場公演を書きたいなど思っていたのと、キャラクターの把握のための試し書きが悪魔合体したものが本作になります。

地の文の形式は、劇場記録のブログ風の表現にしたかったので、ミリシタで一般的と思われる表記ではなく、名字で統一しました。

というわけで、Princess公演、もしくはそのほかの公演レポ (FairlyとかAngelとか)で、またお目にかかれたら幸いです。

令和元年8月吉日 佐倉羽織拝

奥付

765ライブシアター 公演記録（速報版）

2019年 8月11日 初版発行

2019年 8月12日 速報版発行

2019年 8月13日 WEB版発行

筆者 佐倉羽織

発行者 佐倉羽織（マドカミ町奇譚）

<http://circle.fairies.jp/>

装丁 松城 慧（桜月奇譚）

印刷所 あなたのプリンター

乱丁・落丁本については自己責任ですので、印刷した人が対応してください。



